

このニュースはFAXとメールで送信しています。地域民報への転載、各支部への配布にご活用下さい。

さっぽろ

市議団ニュース

2014年3月17日

No.103

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

学校施設に防災機能、早急に 伊藤りち子議員が質問

伊藤りち子議員は13日の予算特別委員会で、学校施設の防災機能の整備について質問しました。

昨年11月、新潟県の宮内中学校を視察した**伊藤議員**は、「中越大震災での経験を生かし、体育館横には高齢者等に配慮した畳敷きの武道場を設置し、炊き出しがしやすいように体育館前に広いスペースを確保するなど、地域の避難所として考えた学校づくりをすすめている。本市でも今後、建て替える体育館は宮内中学校に学んで整備すべきだ」と求めました。

渡邊寛也学校施設担当部長は「体育館を建て替える場合は、格技場と内部に備蓄倉庫を設置し、トイレも整備する。救護、休憩、更衣、授乳の必要性等に応じて配慮スペースを確保することとしている」と答弁。**伊藤議員**は、「一度学校体育館を建ててしまったら、なかなかその後に改善していくことが難しくなる」とし、「避難生活の長期化によるストレスの問題が明らかになっている。避難所となる学校体育館を改善していくことを早急に検討し、できるだけ早く整備を」と強く求めました。

除雪ダンプカーの確保求める 小形かおり議員が質問

小形かおり議員は13日の予算特別委員会で、除雪の体制について質問しました。

小形議員は、「札幌管内のダンプトラックの登録台数は、2003年は3,247台、2012年が2,336台と、10年間で3割近く減っている。排雪作業をスムーズに進めるために、ダンプトラック数を確保する必要があるのではないか。市が率先して手を打っていくべきだ」とただしました。

高松康廣雪対策室長は、「近年、運送事業者の事業縮小・撤退の影響で台数が減少した。昨年度は事業者アンケート調査を行ったところ。除雪委託契約の単価、諸経費率の見直しなどの検証をしていきたい」と述べました。

また、**小形議員**は、「雪が降らなかった日の待機補償料率は60%だが、引き上げるべきだ」と述べ、除排雪作業を担う地元建設業の経営環境は依然として厳しく、働く人の高齢化も進んでおり、今後の除雪体制を維持・充実させる必要があることを指摘しました。

高松室長は、「関係団体との意見交換を密に、行ってきた取り組みの効果を検証して、より安定的な除雪の確保をめざしたい」と答弁しました。